

和光市廃棄物減量等推進審議会 第4回会議録（要録）

- 1 日 時 平成17年2月15日（火）午後1時34分～午後4時3分
- 2 場 所 和光市役所402会議室（4階）
- 3 出席者（敬称略）
【委員】（副会長）竹村幸子、（委員）尾崎弘子、柴田 充、伊藤 茂、岸 佐登美、志村浩明、井上敬三、
【事務局】市民環境部荒木部長、資源リサイクル課柳下課長、富澤課長補佐、リサイクル推進担当田辺統括主査、廃棄物対策担当河野統括主査
- 4 欠席者（敬称略）（会長）西川政晴 【委員】齋藤和康、原 光子
- 5 傍聴者 2名
- 6 次回開催予定 平成17年4月12日（火） 午後1時30分
中央公民館会議室1（見直し課題・第2章 地域の概況以降について、スケジュールについて、その他）

○竹村副会長 定刻が過ぎたので第4回和光市廃棄物減量等推進審議会を開催する。西川会長が所用で欠席のため代わりに進行役をつとめさせて頂く。配付資料の確認と欠席者の報告を事務局からしてください。

○富澤課長補佐 欠席委員は西川会長、齋藤委員、そして尾崎委員は15分ほど遅れるとの連絡があり、原委員からは現在連絡なしです。

次に配付済みの前回の会議録（案）について、柴田委員からの指摘等により1ページ下から6行目の「素案が」を「素案を」に、同じく下から4行目の「具申なり」を「具申となり」に、2ページ上から6行目「必要があるということです。」を「必要もあるうかと考えます。」に、同じく上から10行目「一部としての」を「一部を補填する」に、21行目「事務局です」を「事務局ですので」に、7ページ下から14行目「かなり劇的に」を「分別の徹底等かなり劇的に」に訂正願います。

ほかに訂正がありますか。

○竹村副会長 3ページ志村委員で「廃掃法」とあるが、このような法律があるのですか。

○富澤課長補佐 それは廃棄物の処理及び清掃に関する法律の略です。

他にないようですので第3回会議録はこの内容で決定させて頂きます。

次に本日配付の資料確認ということで、第4回会議次第と資料14と基本方針づくりのための参考情報、そして新聞記事コピーの4つです。

○柳下課長 資料14についてだが、前回の会議でプラスチック再商品化の実態について疑問が出されたので事務局で調査・視察を行った報告書。2月4日金曜日、最初に行った南海化成は福田商会で破碎・洗浄されたプラスチックのフレークが搬入されており、それは品物を確認した。ペットボトルのベールは夏場の需要期に福田商会でフレークにするのが間に合わないときはベールのままで搬入した後フレークにするということだっ

た。必要に応じて添加剤等混入、ペレット化して出荷している。残渣の発生はワズプラスチックでの選別がしっかりしているのではないとのことだった。次に行ったのは岩井化成で、ここは主に容器包装プラスチックのペレット化されてものが福田商会から搬入されており、それにバージン材を50%混入してポリ袋を作っているとのことだった。できたポリ袋は福田商会を通じて朝霞市のごみゼロ運動に使用されているとのこと。300自治体のごみ袋を作っていて、バージン材の混入割合は袋の厚さによって20~90パーセントの幅があり、厚くなれば混入率が低くなるとのこと、ペレットで納品されるので残渣の発生はなく、かなりの量のポリ袋を生産している。次に行ったのが竜ヶ崎資源センターで、福田商会から破碎・洗浄された容器包装プラスチックやその他プラスチックが搬入され、必要に応じてペレット化して出荷しているとのこと。自社で成型、再製品化もしており、主な品目は花器、擬木、歩み板などで量販店に卸していて、デパート等のハンガーの再生品も行っているとのことだった。最後に行ったのは越谷工芸で、福田商会からペレットを受け入れ、成型機械にかけて板状の物にし、強度を検査して添加剤の混合割合を決定した後、南海化成の方に連絡して合ったものを作って貰うとのことで、飲料メーカーの空き缶入れや植木鉢、プランター等に成型しており、販売先は園芸農家や花市場の太田市場とのこと。4社を見た結果、再商品化は適正に行われていると判断しました。

- 尾崎委員 この業者については私も調べた。南海化成はペレットやフレークにする工場であり、福田商会と同じ仕事をしている業者。福田商会にお金を払っているのになぜ同じ工場に渡すのか。この業者は容器包装リサイクル協会の指定業者ではない。指定業者になれなかった業者だと思っている。福田商会が本来ペレットやフレークにすべき物がなぜここに行ったのか。次に、岩井化成はポリ袋を作る会社だが、ポリ袋を作る業界団体に聞いてみたらポリ袋はポリエチレン単体の材料でしか作れないとのことだった。異質のプラスチック材が入ると破れてしまい、和光市から出る様々なプラスチックごみを原料としては作れないことになる。作るとすればポリ袋工場から出てきた端材を利用して作っているのではないか。竜ヶ崎資源センターは写真の通りハンガーをリサイクルしているが、この原料は産廃がほとんどであり、和光市発福田商会経由のペレットやフレークがここで確認できたのですか。
- 柳下課長 岩井化成、竜ヶ崎とも福田商会から搬入された荷物は確認していません。
- 尾崎委員 福田商会からの原料が置いてなければおかしい。あったのはハンガーの破碎物やその他産廃の原料だったことになる。越谷工芸にある福田商会のペレット袋があるが、福田商会はフレコンバッグに入れて出すのが常で米袋に入れてないはずで、いつから米袋に変わったのか。中身のペレットの色が黄色だが、和光市市民が出すプラスチックのペレットはネズミ色のはずで、いつから黄色に変わったのか。私はこの黄色のペレットは産廃を原料とした単体のペレットだと思う。植木鉢やプランターも単体の原料から作られたものであると思う。和光市から出た様々なプラスチックが原料となってこの4社で製品化されているという証拠はどこにもないと判断しています。
- 竹村副会長 プラスチックの再資源化についての議論であるが、この審議会の検討課題として尾崎委員の言いたいことは何で、どのようにすべきだということなのですか。
- 尾崎委員 事務局の報告に対して根本的疑念があり、否定されるべき内容であろうということを言いたかった。プラスチックのリサイクルが成されてないのにそのための委託料を払うのは許されない。福田商会に再資源化業務を適正に行うように言うべきです。

- 柳下課長 和光市からワズに業務委託しており、委託した量は確かに把握しているのでその流に沿って報告するよう言っている。ちなみに16年度4月から12月までワズから福田商会に引き渡した容器包装プラスチックは約624ト、その他プラスチックは11ト、ペレットは11ト、このうち福田商会で残滓として処分したのは270ト、43.5%で、再商品化した量は350ト、56.5%です。
- 岸委員 現場を見なければ判らないと言うことで井上委員といっしょに福田商会に行き説明を聞いてきた。説明では54%はマテリアルリサイクルとしてペレットにして売っているとのことで、再生プラスチック袋等ももらってきたので後でお持ちください。（「単体の原料にはできない」との発言あり。）
- 柴田委員 基本計画見直しのテーマの一つとして尾崎委員の指摘のようにただ家庭から分別収集するというだけではなく、その先の再資源化まで行政としてしっかり確認する方法も盛り込む、民間では産業廃棄物の最終処分・処理の確認に相当費用をかけているので、それと同様のことを行政もやるべきだという課題が提起されたと理解したいと思います。
- 竹村副会長 この議論は実態報告と質疑応答・意見表明ということでこれまでとし、後日見直しの中で課題のひとつとして検討することにしたいと思います。（異議なしの声あり）
- 富澤課長補佐 いま尾崎委員から資料提供があったので配付してよいでしょうか。（「どうぞ」という声あり。資料配付）
- 竹村副会長 それではこの件について時間は15分として提供資料の説明を尾崎委員からして頂きます。
- 尾崎委員 環境基本計画実行計画においては1年以上かけてごみをどうするか議論した。17ページの有料化については国を挙げて進めようとしているところで、資料は都内での有料化の状況とその減量効果を示したもので、和光市と似た都市状況なので参考になると思う。

（表の内容の概略説明）この表の調査以後も八王子市など実施する市が増えている。全体のごみ量が減り資源が増え、戸別収集に切り替えるところが増えている。日野市は熱心な取り組みを行っている。

次に集団回収などの仕組みの見直しとあるが、多くの自治体で行政回収と集団回収の二重の収集が行われている。和光市の概略は次のようになっている。（集団回収と資源回収の資料説明）団体運営に補助金が必要であるというのならそちらの補助金制度で考えるべきで、行政回収が始まる前に始まった集団回収であるが費用は同じ税金から出ており、回収対象地区もダブっているので、行政回収が整備された現在では紙・布類の資源回収はどちらかに一本化する必要があるということで、実行計画に載せてある。行政回収された新聞紙の売り渡しがkg5.6円だが、市場ではkg10円との情報もあるので随分値切られているのではないか。レジ袋の有料化についてはポイント制の効果も上がっているとは思いますが、ヨーロッパの様に一枚2円とか3円で買うようにすれば無駄なレジ袋は減ると思うし、ごみ有料化でレジ袋がゴミ出しに使えなくなればただのごみになるので、商店などに協力を市として働きかける必要があるということ。生ごみ堆肥化の普及については過去の失敗の経験に学んで慎重に進めるべきで、落ち葉の堆肥化は各地での成功例が多いので積極的に進めるということです。

次にプラスチックの種類によるリサイクルのし易さの表ではペットボトルはマテリア

ルリサイクルは容易であるがそれ以外は困難な物が多いということです。（表の内容の概略説明）。

○竹村副会長 質問もないようなので、今後の審議に貴重な資料を頂き、有効に活用したいということで次に進みます。

資料3の5ページ基本方針での前回会議で出された意見等を羅列でよいからまとめて出して欲しいと依頼したが、事務局からこれに関して説明してほしい。

○富澤課長補佐 基本方針づくりの参考情報ということで、これまでの提供資料の中の抽出事項なのだが、基本方針に於いてもこれらの考えを反映する必要があるということで、（資料内容の概略説明）これらを5ページの表にどのような表現で入れていくかということだと思えます。

○竹村副会長 排出抑制や再利用等における市民、事業者のやるべきこと、例えばレジ袋の有料化、その他についても具体的に示した方がよいと思うが、これに関して意見を出してください。

○志村委員 ごみの収集業務を受託している者として現状を報告したい。戸建て住宅地区の路上にあるごみ集積所の状態は良いが、中小規模の集合住宅で管理人がいない備え付けの集積所の排出物は分別がでたらめである。資源である缶びんの中にたばこの吸い殻や内容物が入っていたり、コンテナに入れることになっているのにその他ごみの袋の中に混入しているし、逆にびん・缶のコンテナの中にその他ごみが入れている。プラスチックの袋の中に汚れたままの物や生ごみが入っているがペットボトルは比較的に良い状態である。意識の高い市民と低い市民のギャップが大きく、後者の意識を高めることをもっと行う必要があるので、基本計画の方策の中に入れるべきであると思えます。

○岸委員 最初にシステムとして作ることが大切で、市民はそのシステムにのって行動することになるので、この会議では大きな目的や計画をしっかりと審議して欲しい。昨年暮れに牛乳パックの会とリサイクル市民の会でポールコネット博士のゼロ廃棄物の講演会をやった。廃棄物をゼロにする、使える物はできるだけ使って燃やしたり埋めたりする物は最少限にするという目的を明確にすれば、基本計画もそれにあったものができることになるので、基本方針の中には是非それを入れたいと思っています。

○尾崎委員 ゼロ廃棄物といっても人はごみを出して生活しているので、廃棄物が出ることを前提にして、しかし、環境に与える負荷をどれほど少なくするかという観点で基本方針は作らねばと考える。企業でもゼロ廃棄物をうたっているものあり、自分の所はゼロにするが下請けなどに最終処分を押しつけているという話も聞く。リサイクルのために膨大なエネルギーを使えばそれが環境に悪い結果をもたらすことになるわけで、その場合はリサイクルが良いと言えなくなると思えます。

○岸委員 環境に負荷を与えないということが市民にとって分かり易い言葉がゼロ廃棄物であると思っています。

○尾崎委員 どうしても燃やさなければならぬごみ、例えば病原菌の付いた紙ごみは出ざるを得ないのでゼロとはいえない。後世代につけを残さない廃棄物処理の計画を作るということを基本方針の中に表現したいと思えます。

竹村副会長 7, 8年前に県のゼロエミッション計画が作られ、その時に和光市でも消費者団体がシンポジウムを開いて環境に負荷を与えない市民生活について討論したことがある。資源と環境の保全のためにごみにしないということが最初であり、そのためにグリーン購入も推進されていることもあり、お金が掛かっても資源の枯渇や環境負荷を

防ぐ対策は必要であり企業もそういう考えであるということが話された。和光市に住む我々市民が今ここでできることをやる、ゼロエミッションへの挑戦する以外にない。四街道市のものもゼロに挑戦となっているので、環境負荷を与えないという内容も含ませてこのような表現もわかりやすいのではないかと考えます。基本方針の中に入れられないかと思えます。

- 伊藤委員　ごみ有料化の話が出たが、小売店も含め使い捨ての買い物袋を有料化するなどが定着すれば、ごみは減量すると思うのでそれも必要であると思えます。
- 柴田委員　四街道市のもののよい点は目指すべきところが明示されていることである。有料化も手段の一つであり目的はほかにあるわけでそれを明らかにする基本方針にしたい。ゼロエミッションもそれだけでは間違った方向も出ているので、合わせてもう一段上の環境負荷を与えないという考えも掲げる必要がある。簡潔なフレーズはなかなか難しく今ここでは思いつかないが、そのように考えます。
- 竹村副会長　環境問題に関しては極々一般的な市民にもわかる簡明なフレーズというのは難しい。環境負荷を与えないというのを分かり易く「環境にやさしい生活」と表現すれば「やさしい生活」が変な方向に誤解されたり、ゼロエミッションというとゼロに拘ってしまっておかしくなる。現状では持続可能なという言葉が使われているのでそれが一般的に定着すればそれがよいのだが他の言葉はなかなか見つけるのが難しいようです。
- 尾崎委員　ここではビジョンを提示することが必要であり、その内容は環境保全と次世代に負の遺産を残さないこと、そのために市民の意識、生活様式を変えるのにどうするか、行政は何をするのか、これからの5年10年をどうするかをまとめた形で表現することになる。作業を進めるためにたたき台を作ったらどうか。もし良ければ私が作っても良いと思っています。
- 竹村副会長　今日の議論も含めてこれまで出された意見等をまとめたものを事務局に作って貰いたい。持続可能な廃棄物処理ということは共通認識としてあるところだが、手段まで基本方針のなかに入れるべきなのかは検討を要すると思えます。
- 尾崎委員　市民意識の変革については、ごみ処理にはお金が掛かり環境に負荷がかかるのだということ意識して貰える施策を展開する必要がある。何千年も前から、ごみは外に出しておけば自然が処理してくれるという意識ができあがっている。21世紀にはそれが違っているのだという意識の変革が必要だと思えます。
- 竹村副会長　基本方針の中では、ごみを出さないようにする、再使用、再資源化することが必要であるということを行い、施策や説明の中でごみ処理の費用負担などについて具体化すればよいと思う。これまでの議論からして、大きな視野で地球市民のひとりとして和光市民は何ができるのか考えようということ盛り込めれば良いのではないかと。他に何か加えることがありますか。
- 尾崎委員　今回のごみ処理基本計画の見直しで大きな柱が3つか4つあると思う。地球規模や全国的な課題の他に、和光市独自の今期のポイント課題として有料化、集団回収の見直し、分別収集の見直しを入れておいた方が、地域性、時代性の特色が現れるのではないかと。それが無いとどの市のものも似たようになってしまおうと思えます。
- 岸委員　ポイントは300トンの焼却炉の建設をしないということだと思えます。お金のことは言うべきではないと思えます。
- 竹村副会長　基本方針では大まかな事を言い、その実現手段としてレジ袋の有料化

その他をあげて、市民1人1人の努力が重要な意味をもつのだということを表せば良いと思います。

- 尾崎委員 環境負荷をかけるごみ処理の一番の問題は埋立処分であると思う。埋立するものはゼロにはならないが、和光市が他県や他市町村に迷惑を掛けていることを市民に自覚して貰い、それを極力少くなくすることは、処分場を持たない和光市が一番に考えなければならないことだと思う。明確な目標設定も必要であると思います。
- 竹村副会長 ということはごみの自区内処理を最終目標にすることになります。
- 井上委員 ごみゼロは分かり易いがゼロに拘らなくて良い。市民生活が利便性や快適性を追求するのを止められないので、そうなれば廃棄物を出したり環境負荷をかけることは避けられない。介護で使う紙おむつを布に戻すことはできないと思うので、折り合いをどこでつけるかの問題ではないか。ごみゼロについても費用負担との関係で同じことが言えると思います。
- 柴田委員 スローガンとして、ごみをゼロにするというのは広範囲の市民にもわかりやすく良いと思うが、それだけでは不十分だと思う。また、自区内処理も大切だと思うが、合理的なごみ処理という観点からスケールメリットを考えると広域処理も視野に入れる必要がある。また、民間企業でゼロエミッションを行っているといってもごみが出ないということはないし、そのためのコストも相当なものになっているということがあります。
- 竹村副会長 消費生活では、物のライフサイクルを考えようということが言われている。グリーン購入も環境負荷を与えないような物を買うことによって社会全体をその方向に向けようとするもので、市民が義務感で行うのではなく、日常生活の中でちょっとした意識で気軽にできる行動も基本方針の中に入れる必要がある。分別排出についても資源はみんなのものということ掲げて徹底して貰い、資源化を進めることが必要であると思います。
- 尾崎委員 今度の見直しは、これまでの分別収集でもごみが減らなかったという現状を踏まえて総括し、もう一度振り返って、これからどうすれば良いのかを考える段階に入ったとみるべきである。国の審議会でも、リサイクル貧乏になった自治体があって、これまでのリサイクル推進施策のひずみの是正を目指している。資源ごみを含めたごみ全体を減らす基本方針が必要である。四街道市の基本計画も既に状況に遅れをとっているように思えます。
- 田辺統括主査 事務局としてたたき台を出すように指示されているが、廃棄物処理に対する切り口によって、体系づけも変わってくる。例えば、和光市の現基本計画は行政施策を柱にしているが、四街道市のものは市民、事業者、行政等の役割を柱にしてまとめている。どちらをとるのかを決めて貰わないとたたき台も作れない。見直し作業の進め方は、現在取りかかっている現基本計画の各項目の検討については、問題点をみただけでざっと済ませるということにしておく。それは、全体像と各項目に関する問題点を全委員で共通認識して、その後でどの切り口による体系にするのかを選択し、その体系に基づいて問題点を配置し、具体的に議論を深め一つずつ結論を出していくという方法によりスムーズに進むのではないかなと思うから。これまでの議論では基本方針や各施策が混同されているように見えるのは、基本計画の全体像が整理・共通認識されていないことからきているように思われます。
- 竹村副会長 前回の議論で、行政中心のものではなく市民参加型の計画に変えようと

ということになったと思う。現在の議論は、市民参加型の基本方針をどうするかについて行われている。循環型社会づくりでは市民だけでなく事業者も参加する必要があり、それぞれの役割を明らかにしているのは環境基本計画実行計画でも同じである。行政に任せただけでなく、市民一人一人が考え、参加して進めて行くものにするという議論がなされたということは確認できると思うし、その方向で議論を進めていきたい。持続可能なとか環境に負荷をかけないとかの大きな目標を掲げた基本方針とし、施策としてはコスト意識に基づくとか有料化も施策の手段として考えるなどの意見がこれまでの議論で出されたということを経験のまとめとしたいと思います。

ところで、事業系ごみの処理の実態について知りたいので教えてください。

- 富澤課長補佐 事業ごみは有料シール券を45リットル袋に貼ればごみ集積所に出せる。1枚300円の10枚つづりで市内20数ヶ所のコンビニや酒屋などで販売しています。
- 伊藤委員 事務所から出る物だけでなく、コンビニ等でも客が食べ残した物や容器などを出すために有料シール券を使うこともある。私の所はスープ作りをしているが、鳥ガラは60~80ト出ている。今までは肥料屋へ持って行っていたが、いろいろな病気鳥インフルエンザだとかビーエスイーが発生したということで処理に困っている。紅茶ウーロン茶などは、一度使用するとそれが廃棄物になってしまうので困っている。昔は堆肥にして農家に使って貰ったが、今は重いので持って行って貰えない。引き取ってくれるところが少なくなっている。北海道では大規模農場が多いので喜んで使って貰えるが、県南のこの辺では難しい。これからは廃棄物のことを考えない商売はできない状況で、ごみ処理費用が利益を圧迫している面もある。
- 竹村副会長 食品リサイクル法ができて食品残菜（生ごみ）を堆肥化する事業者が増え、コンビニやチェーン店が農業と提携して自家処理した堆肥を使って貰うことがあるとのことだが、食品リサイクル法に基づいた処理を伊藤委員の所はしていますか。
- 伊藤委員 やっている。ただ、運んでやってなお且つお金を払わなければならない場合があるので、ただで引き取ってくれるところへ引き渡している。生協にスープを卸しているので、生協関連の契約農家に対して、こちらで運ぶから引き取ってくれとかお金を払っても良いから引き取ってほしいと言っても駄目で、関東近辺では使って貰えない状態です。
- 竹村副会長 法例遵守でやればやるほどお金が掛かるという実態があり、リサイクルの輪の繋がりが難しいということですか。
- 尾崎委員 基本計画の中身の検討になるわけだが、具体的に収集、資源回収の内容、分け方集め方、袋排出、箱で良いのかなどを検討するには、この流ではなく収集方法で議論するとかリサイクルについてはどうなのか、ごみ減量ではどうなのかなど、項目建てを変えて議論するということを提案します。
- 竹村副会長 基本方針の議論では、買うとき、使うとき、廃棄するときという大まかな分け方にし、それにかかる施策をつめていく中で実行計画にあげられている事項についても議論することになると思う。来年度の会議では柱建てのたたき台をつくってもらって、いろいろな課題を整理し詰めていくことにしたらどうですか。
- 志村委員 確認したいのだが、現基本方針として排出、収集運搬、中間処理、最終処分項目について、市民参加ができるようなものにするということと、役割分担とか買うところから排出までを柱にして変えていくということなのですか。
- 竹村副会長 そのとおりで、物の製造から最終処分までLCAを勘案して幅を広げた市

民の分かり易いものにしたいということ。ごみを出さないこと、再使用、再利用、再資源化、適正処理まで市民が見届けられるようにするということになると思います。

- 尾崎委員 柱をたてることで議論が整理できるが、これに加えて不法投棄とか市民の学習などの項目もあると思います。
- 柴田委員 これまでの議論でも見えている柱がある、排出抑制、発生抑制、適正処理であり、それ以外で必要であれば加えていくことにしたらどうですか。
- 竹村副会長 次の会議では3つの柱建てをたたき台にして、各項目をはめ込んで議論を進めていきたいが、最後に何かありますか。
- 岸委員 ここにあるプラスチック製品は、井上委員さんと一緒に福田商会を見学したとき頂いた物で、朝霞市と和光市のプラスチック資源を原料にして作った物とのことで、よろしかったらお持ち帰り下さい。
- 富澤課長補佐 次回会議について、会長は5月には所用が済むとのことだが4月中は出欠が不確定の状態です。
- 竹村副会長 次回は4月12日(火)とし、それ以降の日程、曜日、時間は次回会議で話し合うことでよろしいか。(異議なしの声あり)。そういうことにします。本日はご苦労様でした。時間になりましたので本日はこれで閉会します。(閉会16時03分)